



不正無くして米大統領選なし！

2016年前回のトランプとヒラリーの大統領選の最中、近々私との面談が予定されているマイケル・フリン氏は相手ヒラリーの売国情報の裏を取る為ロシア諜報部と接触を重ねていた。ヒラリーは国務長官在職中、世界一のウラニウム生産高を誇るロシア国営核エネルギー企業ロスアトム社の買収予定を知りながらカナダ籍会社ウラニウムワンワン社によるアメリカのテキサス、ユタ、オクラホマ等の数社に及ぶウラニウム鉱山会社の買収を許可した。

結果アメリカのウラニウム生産量の約25%がロシアの手に渡ることになった。

これはアメリカの国家安全保障上由々しき問題である為ニューヨークタイムスが詳しく報じたが、もみ消され闇に葬られた。トランプはこの情報を確かめてヒラリーを攻撃しようと考えたのである。主要メディアはフリン氏の情報を一切無視、逆にフリン氏がロシアのスパイと関係していると騒ぎ立てロシアゲート問題に発展、連日アメリカの話題になった。

そこでアメリカの伝統的政治問題処理手法に従って共和党と民主党で談合が出来、Dominion Voting Systems(投票管理ソフト)を使って一定のヒラリー票をトランプに切り替え、トランプに勝利させることでヒラリーの売国問題は不問となったが、PC操作責任者が交通事故で死んだ。

マイケル・フリン氏はトランプ政権発足と同時に国家安全保障大統領補佐官に任命されたが、トランプが言っているのではないヒラリー情報の一部を口にした為スケープゴートとしてロシアゲート疑惑で偽証罪に問われ起訴され、辞任に追い込まれた。

これによりトランプもフリンも、クリントン財団がウラニウムワンから3,000億ドルに及ぶ献金を受けている事実を含めすべての情報を闇に葬ることを再確認させられたのである。

トランプはウクライナにおけるバイデン親子の犯罪を暴くためウクライナ大統領に捜査を頼んだが、それがもつて弾劾裁判に追い込まれたが幸い共和党多数の上院に救われたが、諦めず主流マスコミの反対を押し切つて亜流マスコミを使って今なおバイデン親子の犯罪を追い続けている。

トランプはヒラリーの場合と異なりバイデンとは妥協しないのである。

だから今度は同じDominion Voting Systemsで逆にトランプ票をバイデン票に切り替えられたのである。

トランプが「私の票が盗まれた」と言うのは全く正しく、バイデンも知るところである。

有権者の80%が感情で投票するアメリカでは必ずしもアメリカと世界に必要な大統領が選ばれるとは限らないから投票管理ソフトが必要なのである。

トランプは「大統領政権移行法」に従わないから政権移行は全く進んでいない。

共和党支持州が得票ではバイデンが勝っていても選挙人がトランプ選出証明書を提出すれば両院合同会議は決着が出来なくなり、合衆国憲法第12条により上院議長のペンス副大統領がトランプを次期大統領に指名することもあり得る。

バイデンならトランプが投獄、トランプならバイデン親子が投獄、そしてヒラリーまで投獄。

共和・民主両党のアメリカ伝統の超党派的談合・合意が無ければ誰が次期大統領になってもアメリカは完全に分断、全米が暴動の坩堝となる。

アメリカと世界の不幸を1月6日までに避ける道はないのか。

神にお願いするしかなさそうである。